

▶ 風力発電の謎に迫る
▶ 再生可能エネルギーの出前授業

2月21日、牛根小学校で、風力発電事業に関する出前授業がありました。これは、本市と鹿屋市の市境で風力発電事業を展開する(株)ユーラスエナジーホールディングスがSDGsの一環として、再生可能エネルギーについて知ってもらおうと企画したものです。当日は、児童15人が風力発電施設を見学し、風力発電の仕組みや再生可能エネルギーについて学びました。参加した児童は「風車が想像以上に大きく、回るのも速くて驚きました。もっと風力発電のことを知りたいです。」と話しました。



▶ 第22回若草文学賞グランプリ受賞
▶ 瀬脇大翔さん『パラリンピックを見ておもうこと』

2月21日、第22回若草文学賞でグランプリを受賞された、瀬脇大翔さん(協和小1年)と同校の富田校長が市長室を訪れました。若草文学賞は、垂水市文化協会が、豊かな感性や情緒を育み、思考力と表現力の向上を目的に市内の小中学生から募集しているものです。今年度は「オリンピック・パラリンピック～感動・絆・思い～」をテーマに小学生53点、中学生15点の作品が出品されました。瀬脇さんの作品は、パラリンピックに出場していた選手へ感銘を受けたことと祖父への思いが書かれています。瀬脇さんは「グランプリを受賞することができて嬉しかったです。2年生ではかけ算を頑張りたいです」と話しました。また、学校賞を受賞した富田校長は「受賞でき、純粋に嬉しいです。児童たち先生方と喜びを分かち合いたいです」と話しました。このたびの受賞おめでとうございます。



▲市長室で記念撮影



▲大きな声で朗読できました

▶ 目指せ！サッカー選手！
▶ 元Jリーガーによるサッカー教室

2月17日、垂水小学校のグラウンドで、元Jリーガーの柳崎祥兵さんのサッカー教室が開催されました。これは、プロで活躍された方からの指導により、技術向上と刺激を受けてほしいと垂水サッカースポーツ少年団が企画したものです。当日は、同少年団員40人が参加しました。いつもの練習メニューとは違うものもあり、団員たちは目を輝かせながら、取り組んでいました。児童は「プロサッカー選手になれるように今日教えてもらったことを忘れずに練習を頑張ります」と話しました。



▶ 第22回若草文学賞
▶ 瀬脇大翔さん『パラリンピックを見ておもうこと』

- 【受賞者紹介】※敬称略
- ◎**グランプリ**
瀬脇大翔 (協和小1年)
 - ◎**最優秀賞**
隈元一護 (新城小1年)
上津蒼輝 (牛根小4年)
山下陽南太 (垂水小4年)
高附結乃 (水之上小6年)
 - ◎**優秀賞**
鎌田光稀 (垂水小1年)
岩元瑛寛 (柊原小2年)
堀之内慶 (水之上小2年)
森木田凜 (松ヶ崎小3年)
天野恵光 (牛根小5年)
前田結 (垂水中央小2年)
有川叶恵 (垂水中央小3年)
 - ◎**推薦**
久木原佳歩 (柊原小1年)
小濱潮磨 (垂水小3年)
松相和希 (牛根小5年s)
前田陽菜 (柊原小6年)
森山結花 (境小6年)
田之上礼佳 (垂水中央小1年)
柳田峻汰 (垂水中央小2年)

◎学校賞 協和小学校

▶ 垂水キッズソフトテニススポーツ少年団
▶ 日頃の練習の成果を発揮!! 県大会で大活躍

この冬、県内で行われたソフトテニスの大会で、垂水キッズソフトテニススポーツ少年団の団員が優秀な成績を収めました。両方の大会で、優勝した川畑寧音さんは「6年生最後の全国大会予選だったので、とても緊張しました。前半のプレーが上手くいきませんでした。修正し、無事に優勝することができて嬉しかったです」と話しました。日々の練習が実を結び、素晴らしい結果となりました。おめでとうございます。今後、ますますのご活躍を期待します。

【団員を大募集！体験練習随時受付中！】ご興味のある方は下記まで！

団員・体験練習の受付：保護者代表 深見 ☎080-1730-5604



▲団員の集合写真



▲両方の大会で優勝した川畑寧々さん・稲村水玖さんペア

▶ 垂水高校生考案レシピが学校給食に
▶ 地元特産品の新メニュー たっぷりの愛情をこめて

2月18日、市内の学校給食に平野利奈さん(垂水高3年)が考えた『りなお姉さんのパクパクふくれ』(さやいんげんのふくれ菓子)が提供されました。これは、本市が取り組んでいる垂水高校振興対策事業にある「地域に貢献し、地域に支えられる高校」実現のため、市内小・中学校との交流事業として初めて実施されたものです。平野さんは、同校の生活デザイン科で家庭科科目を専門的に学んでおり、今回のレシピは、課題研究として発表したもので、児童・生徒に、地元食材の紹介や地産地消、食育の一環となることを期待されます。当日は、給食センターを訪れ、実際に給食が調理されている様子を見学し、給食で提供されるふくれ菓子の調理の補助も体験しました。平野さんは「実際に調理している様子を見学し、貴重な体験になりました。高校3年間で学んだ技術を生かして、地元を盛り上げ、いんげんが苦手な子どもたちにも食べて克服してほしいです」と話しました。食べた児童は「とても美味しかったです。また、給食に出てほしいです」と話しました。児童・生徒のことを思い、一生懸命に考えたふくれ菓子は、児童・生徒を笑顔にし、地元の特産品を美味しく食する機会を与えてくれました。



▲給食センター見学時の様子



▲『りなお姉さんのパクパクふくれ』出来ました



▲「りなお姉さん、美味しかったですよ」